

市院
相馬
撰取

観音像を開眼

住民主導で地域復興へ

福島県相馬市尾浜の真
言宗豊山派撰取院（鈴木
弘隆住職）では震災三回
忌を迎えた11日、大津波
が押し寄せた地域を見渡
す境内の一角に聖観世音
菩薩像を建立して開眼供
養を営んだ。境内前の丘
陵地では、檀信徒ら地域

住民が入居する復興住宅
の建設工事が着工。寺院
を中心にした地域コミュ
ニティーが復興へと歩み
出している。
津波は高台にある撰取
院の2〜3メートル手前
まで迫ってきた。その猛
威で檀信徒約170人が

犠牲になり、8割が自宅
を失った。聖観音像はそ
の津波が到達した地点に
立っている。その前に太
く強く刻まれた「絆」
は、加藤精一管長が揮毫
した。

開眼供養には大勢の地
域住民が参列。焼香した

後「鎮魂の鐘を撞いた。ここに観音様を建ててもらっただけでありがたい」



津波が押し寄せた地区を見守る観
音像。各地から豊山派僧侶30人が
集まり開眼供養を厳修した

と静かに話っていた。

相馬市でも災害公営住
宅（復興住宅）の建設は
遅れており、3月中に入
居できる一戸建てが40
戸、年内入居可が46戸に
とどまるという。集合型
で高齢者向けの復興住宅
は4地区に48世帯分を建
設。24世帯が入居済み
で、残り24世帯もまもな
く入居可能だという。だ
が当分、申し込み希望者
数に追い付かない状況が
続く見通しだ。

そうした中、住民主導
で集団移転を実現した例
がある。漁港がある原釜

・尾浜・松川などの漁師

らで結成した「東部地区
再起の会」では、震災後
の早い時期から国や県・
市に働きかけ、地区の再
建計画書を提出。海に近
い高台への移転を実現さ
せた。近接する2カ所の
丘陵地に、一戸建ての復
興住宅160戸を建設す
る計画だ。

1カ所は撰取院の聖観
音像が見守る丘陵地で、
今月から造成に着手。一
部に畑があったため農地
転用許可の法的手続きに
時間がかかったが、市側
が全面的にバックアッ
プ。土地の買い取りも地

元的地権者が大半だった
ため円滑に進んだ。住民
はここで本格的な漁の再
開にも備えていくとい
う。

入居する住民の中に
は、撰取院と岩子地区に
ある豊山派長命寺（茨木
栄照住職）の檀信徒も多
い。阿寺から近い場所へ
の高台移転が実現し、菩
提寺を中心にした地域コ
ミュニティーの維持にも
一歩を踏み出した。

撰取院の震災三回忌法
要は同日夕、市内の齋場
で厳修され、約250人
が参列。全国から豊山派
僧侶約50人が駆け付け、
法要後には豊山太鼓「千
響」が激励演奏を披露し
た。法要を終えた鈴木住
職は、「三回忌が一区切り
ではないが、みんな少し
ずつ元気になってきてい
るようでホッとしまし
た」と話していた。

豊山派

相馬市の撮取院に
観音像と仏画を奉納

11日の震災三回忌、
境内で聖観音像の開眼
供養が営まれた福島県
相馬市の撮取院では、
大和路秀麗八十八面観
音霊場会（会長＝河野
良文・大安寺賞主）か
ら奉納された十一面観
音像の開眼供養も本堂
で営まれた。

同尊像は震災犠牲者
の慰霊鎮魂のため、仏
師・石賀悟山氏が謹刻。
被災地支援を継続して

いる同霊場会に託さ
れ、霊場会参加寺院で
ある長谷寺・室生寺の
縁で撮取院に奉納され
ることになった。

堂内には仏画師・安
井妙洋氏とその門下生
が、諸尊仏画15枚と仏
画行燈16個を奉納。心
に明かりがともるよう
に「安井氏」願いを込
めた。

午後2時46分、撮取
院に集まった僧侶約30
人は、津波が襲ってき
た方角に向かって読経



（写真）その姿に「あ
りがとうございまし
た」と涙で声を詰まら
せながらお礼を述べる
地元の女性もいた。

霊場会寺院で真言律
宗海龍王寺（奈良市）
の石川重元住職は、「遠
く離れているから何も
できないと思わず、で
きることを積み重ねて
いくことが復興への近
道だと思えます。阪神
大震災で亡くなられた
6千名以上の方々を一
日お一人供養すれば18
年くらいで終わる。そ
れが終わったと思っ
たら震災が起こっ
た。私自身が生きてい
る限り、亡くなられた
方のご供養をお一人お
一人させていただけれ
ばありがたいと思っ
ています」と話していた。